

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 国語科の重点

- 1年①基本的な学習態度の定着 ②読書習慣の定着 ③言語・表現活動の充実 ④書く作業の増加  
 2年①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③読解力の定着  
 3年①意欲的な学習態度の定着 ②書く能力（漢字書き・作文）の定着 ③言語・表現活動の充実

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
年	<p>小学校までに身に付けてきた学力の分析が主となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別ですと「書く能力」と「言語についての知識」については、区の平均正答率を上回っていますが、「話す・聞く能力」と「読む能力」がやや下回っています。</li> <li>・基礎は区平均を上回っていますが、活用はやや下回っています。</li> </ul>	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部います。</p> <p>②文章を丁寧に読み進める姿勢の弱い生徒がいます。小説では登場人物の気持ち、論理的文章では筆者の意見を読み取るのが難しい生徒がいます。</p> <p>③話を聞いて理解することができない生徒がいます。また、目的に沿って話し合いができない生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②小説では登場人物の言動から心情を推測させる。論理的文章では、構成を明らかにして、筆者の最終的な意見を読み取り、まとめさせる。これらを重点的にを行い、読解力の向上を図ります。</p> <p>③授業内に対話をしながら解決を図る課題を設定し、話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。話の重要な部分(5W1H)等をナンバリングするなど、聞きながらメモを取る習慣を確立していきます。</p>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別にみると、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」は区平均を上回っていますが、「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」は区平均を下回っています。</li> <li>・特に「漢字を書く」については、区平均よりも大幅に下回っています。</li> </ul>	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が見られます。</p> <p>②文法理解のための反復練習や、毎週の漢字テスト等、努力と忍耐、集中力が求められる学習に対して、抵抗感を示す生徒がいます。</p> <p>③登場人物の心情を読み取ることや要点を的確に捉えることが不十分な生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度の定着を図り、学習意欲を育てます。（ノート作成、ワークシートの記入の工夫）</p> <p>②漢字、文法等小テストの実施機会を増やし、家庭学習を定着させていきます。</p> <p>③登場人物の行動からその心情を読み取る活動を増やすとともに、説明文における事実と考察を明確に分け、要点を的確に読み取る授業の展開をしていきます。</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別では「国語への関心・意欲・態度」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」は区の平均を上回っていますが、「話す・聞く能力」は区の平均を下回っています。</li> <li>・「話す・聞く能力」は特に「話し合いの内容を聞き取る」ことが区の平均を下回っています。</li> </ul>	<p>①基本的な学習態度、習慣が定着していない生徒が一部見られます。</p> <p>②口頭で伝えたことや話し合いで聞き取ることができない生徒がいます。また、話す際に相手が理解しやすいように「内容を整理」「話の順序を考えてから話す」ことを苦手とする生徒がいます。</p> <p>③漢字の書きに課題がある生徒がいます。</p>	<p>①基本的な学習態度、習慣の定着を図ります。（ノート作成、ワークシート記入の工夫）</p> <p>②スピーチ、集団討論等を実施して話を聞く姿勢や内容を聞き取る力をつけていきます。ナンバリングやラベリングなどの技術を通して、相手に伝わりやすいように順序立てて「伝える」ことを意識化するように指導をします。</p> <p>③学習コンテスト、毎週の漢字テストを行い、漢字の読み、書きの力をつけていきます。</p>

## (2) 社会科

### 社会科の重点

- 1年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③活用力の向上  
 2年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の定着 ③応用力の向上  
 3年 ①学習意欲の向上 ②基礎学力の充実 ③活用力の向上

### 【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の達成率は区の達成率を上回っていますが、「社会的事象についての知識・理解」は区の達成率を下回っています。</li> <li>「資料活用の技能」は区の正答率を若干下回っていますが、他は上回っています。</li> <li>領域別では、「我が国の歴史」「我が国の政治」は区の正答率を上回っていますが、他は下回っています。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学習意欲が極端に欠落している生徒がおらず、授業にしっかりと取り組んでいます。</li> <li>②積極的に発言するなど学習意欲は高いですが、発言内容が断片的であったり、一面的であったりします。</li> <li>③社会的事象について多面的・多角的に捉え、論理的にまとめ表現する力が不足しています。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着に向けた改善策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な社会的事象を個別にお知識として覚えるのではなく、相互の関係や結びつきを理解させるように教材を構成します。</li> <li>・小テストや復習用の課題を活用して反復学習の機会を確保させるとともに、補習を設定し、基礎的知識の習得を支援します。</li> <li>・電子黒板などのI T C機器を活用して学習意欲を高めるとともに、知識と知識との相関関係などを分かりやすく示します。</li> </ul> </li> <li>②思考・判断・表現の能力育成のための改善策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的事項を、資料と関連付けたり比較したりしながら捉えるような学習や、課題を追求する思考活動などを授業の中に取り入れ、思考力を伸ばします。</li> <li>・自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。</li> <li>・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。</li> </ul> </li> </ol>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての観点で区の達成率を上回っており、「資料活用の技能」は大きく上回っています。</li> <li>「思考・判断力」は区の正答率を下回っていますが、「表現力」は上回っています。</li> <li>領域別では、「世界の諸地域」「縄文～古墳時代」が区の正答率を下回っています。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎的な知識を習得する力についてはついてきましたが、なぜ？という視点から系統的・論理的に捉える力がまだ不足しています。</li> <li>②話し合い活動は積極的には積極的に取り組んでいますが、文章で論述することが苦手な生徒が多いです。</li> <li>③中位層の生徒が学力を伸ばしていますが、下位層の生徒の学力が伸びていません。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着に向けた改善策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた知識を整理するための小テストや復習用の課題を提示します。</li> <li>・電子黒板などのI T C機器を活用して学習意欲を高めるとともに、知識と知識との相関関係などを分かりやすく示します。</li> </ul> </li> <li>②思考・判断の能力育成のための改善策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問や資料の活用法を工夫し、課題を追究する思考活動を授業の中に取り入れていきます。</li> <li>・自分の考えをまとめたり発表したりする学習課題や、対話的な活動を通じて課題を追究する学習を設定します。</li> <li>・定期考査において資料活用力や思考力・表現力を問う問題を計画的に出題します。</li> </ul> </li> </ol>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての観点で区の達成率を上回っており、「思考・判断・表現」は大きく上回っています。</li> <li>基礎力・活用力別では、「活用力」の正解率がやや低くなっています。</li> <li>領域別正答率では、「明治時代」が区の平均値を下回っています。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学習意欲が極端に欠落している生徒がおらず、授業にしっかりと取り組んでいます。</li> <li>②基礎学力が不足する生徒にとっては思考をともなう活動や資料を読み解くことが難しくなっています。</li> <li>③知識・理解の面では学習方法が定着し、学力も伸びています。知識を系統的にまとめる力を伸ばしたいです。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着に向けた改善策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したこと（考えたこと・調べたこと、知識として身に付けるべきこと）を振り返り、ワークシートにまとめさせます。</li> </ul> </li> <li>②思考・判断の能力育成のための改善策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を活用して、発問や資料提示の工夫・改善をしていきます。</li> <li>・自分の考えをまとめさせたり、意見交換などの対話的な活動を通じて多面的・多角的に課題を追究する学習を取り入れます。</li> <li>・定期考査において、資料読解や思考・表現力を問う問題を計画的に出題します。また、同様の目的で入試対応型の演習を授業内で実施します。</li> </ul> </li> </ol>

### (3) 数学科

#### 数学科の重点

1～3年とも

- ①学習意欲の向上
- ②基礎学力の定着と向上
- ③活用力の定着と向上

#### 【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の学習内容は全ての観点や領域で目標値を上回っています。</li> <li>・強みは活用分野（思考・判断力）です。観点では数学的な見方や考え方、領域では図形がよくできています。</li> <li>・課題は数学的な技能がやや弱いことです。分数の四則混合や、百分率の計算が苦手な生徒がいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎・基本の定着 既習事項の復習や確認といった学習習慣が確立できていないため基礎学力が定着しません。小数や分数の計算に苦手意識を持つ生徒がいます。</li> <li>②技能の向上 小学校で培った力を伸ばし、図形や数量関係を深めるための計算力を養う必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。夏休みには個に応じた課題を用意して補習を行い、復習に取り組めるよう支援します。</li> <li>②各定期考査前に要点の確認テストと質問教室を実施して、家庭学習の習慣を身に付けさせ、知識・技能の向上に努めます。計算コンテストも年2回行っています。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての観点や領域で目標値を上回りました。</li> <li>・強みは数学的な技能の問題がよくできることです。</li> <li>・課題は数学的な見方や考え方の問題が弱いことです。問題文が少し長いと感じるだけで手を付けられなくなってしまったり、考えるのをやめてしまう生徒がいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①苦手意識の克服 整数なら計算できるが、小数や分数の除法の計算に苦手意識を持つ生徒が一部います。また、文章題にも文章をよく読んで考えることに苦手意識があり、手をつけられないということがあります。</li> <li>②活用力の向上 問題文を読み取り思考判断し数学的に処理する力を養う必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本問題を、段階を踏んで解くことを重視し、苦手意識のある生徒でも「わかる・できる」気持ちを伸ばしていきます。</li> <li>②繰り返しの学習を実施することにより復習の機会を設けます。また、小テスト等で決められた時間内に正確に解く習慣を身に付けさせ、計算力の向上に努めます。</li> <li>③活用を扱う授業では、答えだけでなく、なぜそのように考えたのを大切に、数学的に発表する授業を展開します。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての観点や領域で目標値を上回っています。</li> <li>・昨年度課題として挙げた技能を、改善して伸ばすことができました。特に図形の計量や確率分野の正答率が高くなっています。</li> <li>・課題は連立方程式の利用や1次関数の利用、図形の証明など苦手意識のため活用の問題を分析せずにあきらめてしまい、2分化に近い形になってしまっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎・基本の定着 直前に学習した図形の性質や確率はよくできますが、以前の内容の定着が課題です。</li> <li>②技能の向上 解答を見直さない生徒が35%以上、間違った問題を解き直さない生徒が43%と、自己を振り返ることができていません。連立方程式から文字が表す数量を読み取ることや、三角形の面積を二等分する直線の式が苦手です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①習熟度別授業でスパイラルの指導を実施します。既習事項をわかるまで復習し、知識の定着を図ります。小テストで決められた時間内に正確に解く習慣に加えて、見直しの意識付けも行い、計算力の向上に努めます。</li> <li>②習熟度別授業の強みを生かして、細かく声をかけながら生徒同士で答えを見合う活動をします。また、上述の小テストに加えてテスト前には質問教室を実施します。</li> </ul>

#### 習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・習熟度別少人数指導では、基礎クラスはスパイラルの指導を実施し個々に認め励ますことによって自信を持たせます。また、発展クラスは学びあい教えあう学習により、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わわせて、学習意欲を高めます。
- ・補充学習を夏休みの他、毎週火曜3年・木曜2年・金曜1年と放課後に実施しています。任期付短時間勤務教員が数学科の教員とともに担当し、基本問題を段階を踏んで解くことを重視して、「わかる・できる」気持ちを伸ばしていきます。

(4) 理科

理科の重点	
1年	自然の事物現象を見て、問題 を発見する力を身に付ける。
2年	発見した問題に対して課題を設定し、実験観察の計画を立てる。
3年	自然の事物現象を調べ、探求のプロセスを振り返り改善する。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察実験の技能意外の観点で、目標値を下回っています。</li> <li>自然事象への関心意欲態度の観点が、低い値を示しています。</li> <li>「大地のつくりとはたらき」「植物・動物のつくりとはたらき」の問題で、特に正答率が低くなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学校からの学びの連続性を考慮し、生徒の興味や関心を高める授業が必要です。</li> <li>②小学校の学習内容が定着していない分野では、中学校の学習も理解できない可能性があります。</li> <li>③既習内容や生活経験を、新たな問題に適用して考えることに課題があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 業の導入部で、小学校での学習内容を思い出させるような導入を行います。小学校の学習内容を考慮した年間指導計画に改善します。</li> <li>②小テスト・演習などを利用して基礎学力の定着を図ります。</li> <li>③映像やパソコンや生活経験を活用しながら考える機会を増やし、定着の向上を図ります。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての観点で、区の平均値を上回りました。</li> <li>知識理解の観点では校内平均値が目標値を下回っています。</li> <li>「植物の分類」の問題では特に正答率が低くなっています。</li> <li>「生命」と「地球」領域の正答率が低くなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学校までや中1の学習内容の基礎・基本を定着させる必要があります。</li> <li>②身近な植物を観察したり、手にとって見たりする機会が少なく、観察の基礎が身に付いていません。</li> <li>③植物や地学に興味・関心をもたせる必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観察や実験をできる限り多く行ない、技能の習得と興味・関心の向上を図ります。</li> <li>②短い期間で小テストを行い、内容の定着を確実にします。</li> <li>③質問教室や補充教室を行い、遅れがちな生徒をフォローしていきます。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験の技能が目標値を下回っています。</li> <li>正答率では、特に「粒子」「エネルギー」の領域が低くなっています。</li> <li>問題別の正答率では、「化学変化と質量」の内容の正答率が特に低くなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 今回の結果からテスト時にはとれていた内容が、定着していませんことが分かりました。</li> <li>② 計算系の問題に苦手意識をもつ生徒が多いようです。</li> <li>③ 粒子分野やエネルギー分野に関心を持たせる必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 繰り返し学習や小テストや演習を多用し学習内容の定着を計ります。</li> <li>② 計算が必要な分野では、補習や質問教室を行っていきます。</li> <li>③ 都立高校受検に向けて、基礎を固め応用力をつけるための問題演習などを、授業内や補習で行っていきます。</li> </ul>

## (5) 音楽科

### 音楽科の重点

- 1年 音楽を楽しみ、愛好する心情を育てる。
- 2年 表現することのおもしろさを知り、積極的に表現活動を行う。
- 3年 鑑賞と表現のつながりに気づき、創造的な表現を工夫できるようにする。

### 【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現することに意欲的な生徒が多いです。</li> <li>・力任せに歌ってしまうことが課題です。</li> <li>・これから変声期を向かえる生徒も多く、音域が合わず、歌うことに楽しさを見いだせない生徒がいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて音を聴き合う環境に慣れさせる必要があります。</li> <li>・音楽における基礎・基本を定着させ、表現につなげていくことが課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱における正しい発声の仕方や基礎をICTを活用して見本演奏を見せたり、教員が模範演奏を繰り返し行い、定着させる。</li> <li>・一つの領域に偏らず、歌唱・鑑賞・器楽・創作の各領域の系統性をもたせた授業を展開します。</li> <li>・ワークシートでの繰り返し学習を行い、学習内容を表現活動へと生かしていきます。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌うことに意欲的な生徒が多くいます。</li> <li>・基礎基本が定着している生徒は少ないです。そのため、基礎基本を使った表現が苦手な生徒が多くいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を活用する能力に個人差があります。</li> <li>・話し合いや学び合いの場面を増やし、個々の主体性を引き出す手立てが必要です。表現活動を牽引する生徒を育てる必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本を使って表現する機会を増やし、学習内容の定着を図ります。</li> <li>・協働活動を取り入れ、自分の考えを、根拠をもって発表し合う機会を作り、学習と表現の内容を深めていく工夫を取り入れます。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対して積極的な生徒が多くいます。</li> <li>・合唱の練習では、パートリーダーが中心となり、自分たちで音取りを行います。</li> <li>・鑑賞と表現のつながりを意識した表現に課題があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を活用する能力に個人差があります。</li> <li>・受け身がちな生徒が、主体的に取り組めるような手立てが必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現活動の中で、他者と調和・共感し合いながら表現を深める活動に重きを置きます。</li> <li>・自主活動を意図的に計画し、支援していきます。</li> <li>・自己評価や他者評価など、生徒自身が授業の中で互いに評価し合える活動を多く取り入れます。</li> <li>・言葉をもって自らの考えを整理し、表現につなげる活動を取り入れます。</li> </ul>

## (6) 美術科

美術科の重点 <全学年>

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み、心豊かに創造していく意欲と態度の向上を図る。
- (2) 多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫して美しく表現する能力を育成する。
- (3) 自然や美術作品などについて、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力の充実を図る。

### 【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒は授業に取り組む姿勢は熱心で意欲的ですが、周りを気にせず授業に関係ないことをする生徒がいます。</li> <li>・作品の制作進度の差が大きく、遅い生徒の指導と配慮が必要です。</li> <li>・生徒によって予備知識の差で鑑賞教育に理解差が出ています。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業時間内に計画的に取り組めず、作品が仕上がらない生徒がいます。</li> <li>②制作手順や技法について十分に理解できない生徒がいます。</li> <li>③生徒の経験値によって情報の共有し合えず、満足な授業ができないことがあります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の実態や特長を把握し、集団制作を取り入れ授業に集中させる工夫を導入します。</li> <li>②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。</li> <li>③授業導入時に5分間鑑賞を行い、誰でも一から理解できる時間を作ります。</li> </ol>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年に比べ生徒の数に変化が生まれ、集中できる、できない生徒で分かれています。</li> <li>・1時間の授業に全員が集中して取り組める授業づくりが必要です。</li> <li>・自分で考えたり他の教科で学習した内容を応用するのが苦手な生徒が多いです。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①集中が続かない生徒が作業が遅れ、生徒の能力差が生まれます。</li> <li>②作品の制作進度に大きな差が生じています。</li> <li>③何がわからないか考える習慣を身につける必要があります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①関心を持たせるための題材、授業展開の他、メリハリのある指導を大切にします。</li> <li>②アイデアスケッチなど先を見通して制作できる環境をつくり、制作の姿勢を身に付けさせます。</li> <li>③対話形式の鑑賞を通してわからないことから解を見いだす練習をします。</li> </ol>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に授業に取り組む姿勢、意識が高く、真面目です。</li> <li>・集中力が続かず、作品が完成できない生徒が数人います。</li> <li>・作業は熱心に行いますが、創意工夫、考えることに苦手意識のある生徒がいます。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①意欲的でも、勉学への関心を持つ持たないで差が生まれています。</li> <li>②作品制作は取り組みますが、制作過程の大切さを理解できていない生徒がいます。</li> <li>③自分で考えてものを作ることが苦手で、前例がないと戸惑ってしまいう生徒がいます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の実態や特長を把握し適切な課題の設定と教材の開発に努めます。</li> <li>②アイデアスケッチなど先を見通して制作させる時間を作ります。</li> <li>③授業導入時に5分間鑑賞を行い、日常生活の中にある美術の果たす役割にも目を向け、卒業後も美術に対する興味・関心をもち続ける意識（感性）を育てます。</li> </ol>

## (7) 保健体育科

保健体育科の重点 <全学年>

- (1) 運動と健康・安全の関係を意識し、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させる。
- (2) 基礎的な技能や知識を身につけ、それを活用する力（思考力・判断力・表現力等）を育む。
- (3) 運動の楽しさや喜びを味わわせ、生涯スポーツに向けた実践力を育てる。
- (4) 意欲的に学びに向かう力、仲間と関わり合いながら学習する力を育む。

### 【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果からは、男子は筋持久力が平均を上回っているものの、スピード、持久力、投力に課題が見られます。女子は、筋力が平均を上回っているものの、持久力、投力に課題が見られます。</li> <li>・学習や運動への意欲、関心は高いですが、思考力・判断力について不十分な面もあります。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎的な身体能力の向上を図ります。</li> <li>② 主体的に学びに向かう力を育てます。</li> <li>③ 自己の課題に取り組む姿勢を育てます。</li> <li>④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。</li> <li>② 学習カードやICTの活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。</li> <li>③ グループ学習のモデルを示し、チームやペアでの教え合いや話し合いを通して、係やリーダーの育成に力を入れます。</li> </ol>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果から、男子は柔軟性とスピードに課題が見られます。女子はスピードに課題が見られます。</li> <li>・概ね意欲的に運動に取り組むことができますが、自ら課題を見つけ、主体的・対話的に学習を進めるといふことについて不十分な面もあります。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎的な身体能力の向上を図ります。</li> <li>② 主体的に学習に取り組む、自己の課題を我慢強く解決する姿勢を育てます。</li> <li>④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。</li> <li>② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進めていくことができるようにします。</li> <li>③ 学習カードやICTの活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。</li> <li>④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。</li> </ol>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果から、男子はスピード、瞬発力、投力について若干課題が見られます。女子はほぼ平均的ですが、筋力が高い傾向にあります。</li> <li>・概ね、運動への関心・意欲は高いですが、特に女子において二極化傾向も見られます。</li> <li>・思考力、判断力、表現力等は少しずつ成果が見られ、的確な分析や文章表現ができるようになってきました。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎的な身体能力の向上を図ります。</li> <li>② 主体的に学びに向かう力と協力して学習を進める人間性を育てます。</li> <li>③ 自己の課題を的確に理解し、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を育てます。</li> <li>④ 思考力・判断力・表現力の育成に力を入れます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 種目に応じた補助運動を取り入れ、準備運動やコンディション作りに取り組む習慣を定着させます。</li> <li>② 係やリーダーを中心とした自主的な授業を進め、授業全体で協力し、互いに高め合う雰囲気を作っていきます。</li> <li>③ 学習カードやICTの活用で思考力・判断力・表現力の向上を図ります。</li> <li>④ グループやチーム分けに配慮し、教え合いや話し合いの機会を増やします。</li> </ol>

**(8) 技術・家庭科**

技術・家庭科の重点 <全学年>

(1) 課題解決に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が主体的に取り組む授業を目指します。

(2) 実践的・体験的な学習活動と、適切な評価をおこなうことで学習意欲を高めるようにします。

(3) 生活と知識と技能を関連させた題材により、考えて発表する言語活動を充実させます。

**【中学校】**

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。</li> <li>落ち着いて授業に取り組んでいます。</li> <li>実習では製作進度に個人差が大きく配慮が必要です。</li> <li>衣食住への興味はありますが、基本的な概念の理解に繋がっていない生徒もいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの記入や製作で個人差が大きいです。</li> <li>作品製作の体験が少ないので、作業の基礎・基本を丁寧に指導する必要があります</li> <li>表現力・発表力の向上が課題です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習や製作進度が速い生徒に先生役をお願いし、遅れている生徒の手助けを行います。</li> <li>それぞれの生徒が家庭生活で役立つ収納作品の設計と製作を通じて、創造性を高めます。</li> <li>家庭生活や食生活での重要性について重点を置きます。実生活と照らし合わせ、課題について考え、解決できるように指導します。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。</li> <li>落ち着いて授業に取り組んでいます。</li> <li>製作に対して苦手意識をもっており、集中力がやや欠けてしまう生徒が多いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの記入や製作で個人差が大きいです。</li> <li>表現力・発表力の向上が課題です。</li> <li>製作の基礎・基本を確実に習得する必要があります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術と実生活との関連を考え、生活の中に役立つ技術について考えて発表する教材を取り入れて、言語活動を充実します。</li> <li>個別指導で、必要な支援を行います。</li> <li>写真や動画などの視聴覚教材を用いて、生徒がつまづきやすいポイントを示しながら分かりやすく説明します。</li> <li>実習の技能面での基礎・基本をくり返し行って確実に習得できるように指導します。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢は、熱心で意欲的です。</li> <li>落ち着いて授業に取り組んでいます。</li> <li>意欲的に製作に取り組むことができます。</li> <li>限られた時間の中で、創意工夫を考えながら製作することが苦手な生徒が多いです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの記入や製作で個人差が大きいです。</li> <li>表現力・発表力の向上が課題です。</li> <li>子どもの成長について考察する姿勢に個人差があります。</li> <li>自分の技能を理解し、見通しをもって製作する必要があります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術分野はものづくりを多く取り入れ、実践活動を充実させます。</li> <li>家庭分野に幼児とのふれあい体験を取り入れ、伝えたり実践したりしていく活動を充実させます。</li> <li>幼児向けおもちゃの製作活動を通して、幼児の成長に関心をもてるようにしていきます。</li> <li>毎時間、製作の見通しを明確に立て、創意工夫を考えながら取り組むことができる環境作りを徹底します。</li> </ul>



(9) 英語科

英語科の重点

1年～3年とも

- ① 自立的な学習態度の定着
- ② 基礎学力の定着
- ③ 言語活動の充実

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーディング活動、スピーキング活動に対して、楽しんで取り組むことができる生徒が多くいます。</li> <li>・ペアワーク、グループワークへ意欲的に取り組む生徒が多くいます。</li> <li>・学力の高い生徒とそうでない生徒の差が大幅にあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業での課題や宿題へ取り組む意欲は高いですが、自主的に学習に臨む姿勢はまだ不足しています。</li> <li>②一度学んだ単語、文法表現の定着がしっかりできていない生徒がいます。</li> <li>③単語レベルが上がり、リーディング活動が困難になっている生徒がいます。また、ライティングへの苦手意識を持つ生徒がいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小テストや発表等の取り組みを通し、達成感を得られるようにします。また学習法のシェアなどを取り入れ、自ら意欲的に学習にチャレンジする姿勢を育てます。</li> <li>②学んだ英語をアウトプットさせる機会を増やし、自信をつけさせます。また、家庭での繰り返し学習を徹底させることで、基礎学力の定着を図ります。</li> <li>③様々な技能と結びつけて授業を行うことで、苦手意識を減らしていきます。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全国・区平均をともに上回っているが、一部全国平均に届いていない項目として、対話を聞き取りあとの質問に答える問題では4ポイント低くなっています。</li> <li>・まとまった量の作文を書くことについては比較的良い結果が出ていますが、単語を正確に綴ることができない生徒がいます。</li> <li>・英語の問いに答える問題が聞き取りでも読みとりでもやや劣っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基礎的・基本的な知識を活用するための反復練習が不足しています。</li> <li>② コミュニケーションへの意欲は高いのですが、表現に必要な語彙力が乏しい傾向にあります。</li> <li>③ 英語の語順を理解し、自分で推測して読むような学習活動に力を入れていく必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 英単語の小テスト等をこまめに行い、スモールステップで達成感を得られるようにします。また、副教材のワークを定期考査に必ず出題し、反復学習を促します。</li> <li>② 正確に英文を書く表現力を身に付けられるよう、熟語や重要表現の学習を増やします。</li> <li>③ 教科書の本文に関する英問英答を日々取り入れ、また教科書以外の長文にも慣れさせながら、質問に正確に答える力を身につかせます。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別では、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」が区達成率より低くなっています。</li> <li>・領域別では、「読むこと」が「聞くこと」や「書くこと」より劣っており、問題別にみると「さまざまな英文の読み取り」に力不足が見られます。</li> <li>・同一母集団における経年比較では、「活用」に若干の伸び悩みが見られますが、「基礎」に大きな伸びが見られ、総合的にも向上しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①総合的には基礎力が身につけてきているものの、自分の表現したいものをアウトプットできない傾向があります。</li> <li>②長文問題に苦手意識があり、手をつけられない、途中であきらめるといったことがあります。</li> <li>③身に付けた知識を活用するために、さまざまなタイプの問題にふれる機会を多くもつ必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Writing や Speaking に取り組む時間を増やし、重要表現をくり返し学習させることで、使える表現の定着を図ります。</li> <li>② 帯活動や入試問題など、たくさんの長文問題にふれる中で、逐一その解き方や読み進め方のポイントを指導していきます。</li> <li>③ 問題演習をこまめに行うことで、問題への抵抗感をなくし、質問に正確に答える力を身につかせます。</li> </ul>

少人数指導の充実（任期付短時間勤務教員活用の工夫）

週4日（月、火、木、金）、教科担当と相談して必要な教材準備を準備し、一斉授業に出られない生徒について個別に指導を行ってもらう。

A L T活用の工夫

教科書の speaking 教材に工夫を加え、生徒の実生活を踏まえたシチュエーションの内容で練習ができるよう準備をしてもらい、リエゾンなど自然な発音指導をしてもらう。また、英作文の添削を通じてより自然で実用的な表現を学べるよう助言をしてもらう。